

井坂しんや団長が代表質問

実効性ある地球温暖化対策を



県議会議員 横浜市港北区

大山奈々子

第1回定例会、日本共産党の井坂しんや県議が代表質問、上野たつや県議が一般質問に立つなど、県民要求実現に全力をあげました。その概要をお知らせします。



国に地球温暖化対策の見直しを求めよ

昨年、国連事務総長は、2050年に温室効果ガス実質排出ゼロを達成するよう各国に要請。しかし、日本は、実質排出ゼロ宣言もなく、更なる削減目標値も打ち出せませんでした。井坂県議は、日本の地球温暖化対策の方針を改めるべきではないかと、知事の見解を求めました。知事は、国が世界全体のCO₂の排出料を上回る削減技術の確立を目指していることから、見直す必要がないという趣旨の答弁を行いました。

石炭火力発電所建設の中止を求めよ

井坂県議は、横須賀市久里浜の石炭火力発電所が稼働されれば、それによるCO₂排出量は、県全体の排出量の約1割に匹敵すると指摘。知事は、「かながわ気候非常事態宣言」をした以上、石炭火力発電所新設に、明確に中止を求めるよう迫りました。知事は、「建設を中止するか否か

長時間労働の解消を

井坂県議は、ハラスメントは、被害者の尊厳と人格を傷付ける人権侵害と述べ、ハラスメントの禁止を方針として位置づけるとともに、ハラスメント行為を審査する第三者委員会の設置などを要求。自死した職員のうつ病発病前6ヶ

パワハラ根絶と

知事は、「多くの部分については裁判を通してあきらかにされる」。また、「遺族に対しては、申し訳ない気持ちを伝えたつもりだったが、その思いが伝わっていないとすれば率直に反省したい」と述べました。

遺族に会って謝罪をすべき

自死した県職員の遺族が、パワハラや長時間労働によって、うつ病を発症し自死に至ったと提訴。

県職員の自死と関連する課題について

知事は、計画の改定に向け議論していると答弁しました。

見直し、それに見合った事業を進めるべきと求めました。

県の温暖化対策計画の改定を

県の地球温暖化対策計画は、2030年に温室効果ガス27%削減、2050年に80%削減となつていきます。「かながわ気候非常事態宣言」を行って、2050年に温室効果ガス実質排出ゼロを目指すのであれば、県の地球温暖化対策計画の目標を見直し、それに見合った事業を進めるべきと求めました。

は国において判断されるもの」と事実上の建設容認をする姿勢をしめしました。

保育の労働環境、ただちに改善を

横浜市内の認可保育所で管理栄養士として9年間働いてきた上野県議。現場の実態から、過酷な労働環境の原因の一つは、国が定める保



知事は、「指定医療機関の感染症病床以外でも、入院を可能とした。衛生研究所の試薬等を充実させ、検査の迅速化を図っている」と答弁し、感染症病床の拡充には言及しませんでした。

上野県議は、「公立・公的病院は地域で重要な役割を担っている」と述べ、公立・公的病院の感染症病床を拡充することを主張。さらに、感染症の検査体制の脆弱さを指摘し、県衛生研究所の人員と検査体制を強化するよう求めました。

県内では、感染症患者などを入院させる感染症指定医療機関が8機関(74床)あります。このうち7機関は公立病院で、残り一つは公的病院です。

上野県議が一般質問

新型コロナウイルスの感染症対策の強化を



育士の配置基準が低いことにあると指摘。最低基準の抜本的改善を国に要望するとともに、保育士配置のための上乗せ補助を県独自に行うべきと求めました。

知事は、「配置基準の改善を国に求めることや、県独自の上乗せ補助を実施することは考えていない」と、保育関係者の願いに冷たい答弁をしました。

県立高校のブラック校則見直しを

生徒の髪の毛の色や髪型、肌着の色を指定するなどの理不尽な「ブラック校則」。上野県議は、生まれつき茶髪の生徒が地毛証明書を提出したのに、「黒く染めなさい」と指導を受け、その後同級生からいじめを受け、不登校になった事例を示し、ブラック校則を批判しました。

「県立高校の校則には、人権侵害と思われるものや必要性に疑問があるものが存在している」と指摘し、教育長の見解を求めました。

教育長は、髪の毛や形、肌着の色を指定することは、人権侵害にはあたらないとしつつ、「人権侵害に当たる内容や、時代の変化等により実態に合わない内容は、見直していく必要がある」と答えました。

直して仕事量を減らすか、職員を増員するしかない」と主張しました。